

新潟県女性センター情報 NO.68

2008. 7. 18.発行

春から講座が盛況です。夏から秋もご期待ください！



2008年度の新潟県女性財団は春から活気にあふれています。
4月に本年度最初の事業として実施した定期講演会「幸せを呼ぶ！私のキャリアプラン」には30人を超える方からご参加をいただきました。
このあと、夏から秋にかけても充実した講座を沢山ご用意しています。随時ご案内をしていきますので、ぜひお時間を作ってご参加ください。

今回のトピックス

- ・定期講演会「わたしたちの性差医療」講座報告
- ・キャリア形成支援事業「40歳からのLifeキャリアプラン」講座報告
- ・今年度の注目事業～ 地域セミナーのご紹介 ～
- ・その他の事業のご紹介
- ・又エック研修報告

定期講演会「わたしたちの性差医療」報告

今年から毎年3月1日から8日を厚生労働省が「女性の健康週間」に定めるなど、近年、性差に着目した医療「性差医療」という言葉を耳にするようになりました。また、新潟県内でも県立がんセンターをはじめ、少しずつですが「女性外来」を設ける病院が現れてきました。

女性財団でも、一人ひとりが“自分らしく心とからだを大切に”暮らせる社会を願って講演会を開催しました。

【講座概要】日時：平成20年7月1日（火）10:00～12:00 参加者数：22人（うち男性2人）

講師：佐山光子さん（新潟大学医学部保健学科教授）

新潟県内において母子保健ならびにリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の研究者として知られる佐山さんによる講演は、「性差医療」を単なる医療の一分野として捉えるのではなく、男性の自殺の多さやDVなど社会的な男女の位置付けや相互の関係性なども含めた「公衆衛生」の観点で見ることの重要性について具体的にわかりやすく説明をしてくださったものでした。その上で、女性の身体には月経に代表されるように男性と異なるリズムがあり、このリズムに合わせて治療をすることで効果が違うなど、「性差」に基づいた医療がなされることの有為性や80年代の米国に端を発した性差医療の歴史などについて説明がありました。

ただし、国内でいち早く女性外来の設置を行っている病院のデータでは受診者の三分の一は医師が話を聞くだけで解決をしたケースであり、医師不足の状況下で性差医療を進めていくためには、医学と保健が連携し、「まちの保健室」といった取組が重要なのではないかとということでした。

キャリア形成支援事業「40歳からのLifeキャリアプラン」講座報告

女性財団では、今年度より、女性が様々な分野でチャレンジし、生涯にわたって主体的に選択しながら自分自身のキャリアを形成するための支援事業を実施しています。この場合のキャリアとは、職業上の経歴のみを意味するのではなく、生活のあらゆる領域や段階での経験を通して獲得される包括的な力や潜在能力（ポテンシャル）全体を指しています。

今回、女性財団では40歳を人生におけるターニングポイントととらえ、40代以上の女性を対象に、これまでの生き方を振り返るとともに今後の人生を主体的、具体的にプランニングする講座を実施しました。専業主婦歴15年の後、40歳で再就職、52歳で社会保険労務士の資格取得後、独立開業された菅原恵子さんを講師に、自身の体験談もお聞きしながら、参加者一人ひとりが勇気を持って一歩を踏み出すための「ライフキャリアプラン」を考えました。



【講座概要】

日時：平成20年7月5日（土）13:00～16:00 参加者数：24人
講師：菅原恵子さん（すがわら恵子事務所所長、キャリア・コンサルタント）

私にとっての「キャリア」とは仕事上での意味が強く、講師から今までの人生で経験したすべてが関わってくると聞いた時は少し戸惑いました。私が教わった「仕事」は自己犠牲が大半で、自分のやりたい事をしている人なんて天性の能力のある人か特別な人しかできないと思っていたからです。

しかし、講座の中で、自分の長所短所やこれまでやってきたことを確認する「私の振り返りノート」の作成を参加者同士で話し合いながら進めていくなかで、自分がどういう人間なのか具体的に見え、これから私はどうなりたいのかが明確になってきました。そして、すでに自分の中に答えはあるのに、それを直視する事で今までの自分が否定されるようで怖く、自らフタをしめていたのだと気付きました。

講座の最後に講師の体験談を話していただきました。その時には、すでに自分を振り返る作業をして整理できていたせいか、今までの自分の人生と重ねて聞くことができ、より共感が持てました。

そして、自分の今までの積み重ねや自分らしさ、その全部を自己理解した上でこれからどう歩んでいきたいかが「キャリア」なのだと素直に受け止めることができました。人生には決定期が沢山やってきます。それを乗り越えるための一歩として私は、自分なんて無理とすぐに思わず、周囲の人に「話してみる」ことを大切にしていきたいと思います。講師が最後に言った「決定期には勇気が問われる」の言葉が私にズブリと突き刺さりました。 【報告者：企画運営委員 大橋恵理】

今年度の注目事業 ～地域セミナーのご紹介～



今年度事業の中から市町村や団体・グループと共催の「地域セミナー」についてご紹介いたします。

市町村	開催日	テーマ・タイトル等
燕市 *好評終了	6月16、23、30日 全3回 10:00～12:00	エンパワーメント講座 「リフレッシュのためのおしゃべり café 毎日がハッピーになる方法 子どもとわたしのワクワク生活！」

五泉市 *好評終了	6月28日、7月6、 12日 全3回 10:00~12:00	子育て支援セミナー 「親と子ども 気持ちが通じる いい関係」
新発田市	8月5日 19:00~20:40	おいしい養生レシピ~料理づくりは健康づくり
十日町市	9月17日 19:00~20:30	“ワーク・ライフ・バランス”とは。なぜ今必要か
長岡市	9月19日 13:30~15:30	“ワーク・ライフ・バランス”を考えるシンポジウム
刈羽村	1月18日	食育をテーマに開催します。
柏崎市	1~2月	復興のための男女共同参画地域推進リーダー養成講座

団体	開催日	テーマ・タイトル等
柿崎わいわい しゃべろう会 (上越市)	6月29日、7月2、9日 10月8日、11月16日 全5回 10:00~12:00	アラウンド30・・・女性たちの楽習会 「きっと明日 わたしらしく」
あるじゃの会 (新潟市)	8月31日 12:00~15:00	大パーティ！おばあさんから受け継ぐもの パート2
ラクリズム (新潟市)	9月26日 及び12月	5年後の私は輝いているー今の自分を好きになる！ Happyなこと、みつけよう！ー
はっぴーズ コミュ (燕市)	10月2日 10月9日	母親応援したい！@県央地域
愛めっせーじ (新潟市)	10月16、23、30日 全3回 10:00~12:00	私を大切にするための「からだメンテナンス」
Happy Balance (新潟市)	1月~2月に全4回	わたしの気持ちを届けるために ~アサーティブ・トレーニング~

各セミナーの詳細については内容が決定しましたら、財団ホームページ等でご案内をします。

その他の事業のご紹介

今年度事業の中から3つをピックアップしてご紹介します。

【講座企画力養成事業】*自治体職員向けの男女共同参画の視点を取り入れた講座の企画運営について実践的に学ぶ講座です。

日時	内容	講師
5月19日	「男女共同参画社会」とは 「地域の現状とニーズを読み解く」	石川伊織 (5月：県立新潟女子短期大学 准教授)
7月22日 8月22日	「企画を成功させるためのファシリテーションスキルを身につけよう」	川端美智子(7月・8月：女性財団事業コーディネーター、(株)ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役)

【8月の定期講演会】*同封のチラシもご覧ください。

日 時	内 容	講 師
8月30日(土) 14:00~16:00	すれ違う思い 妻と夫 ~もう一度、結婚するなら誰とする?~	柏木恵子(東京女子大学名誉教授)

【にいがた女と男フェスティバル2008】*詳細は次号で特集いたします。

日 時	内 容	会場：講師など
11月29日(土) 11月30日(日) 9:00~17:00	29日午前・午後、30日午前：ワークショップ ・今年9団体10企画が参加します！ 30日午後：講演会 ・現在、内容を検討中。決定後ご案内いたします。	新潟ユニゾンプラザ 女性団体交流室 1・2、小研修室2・4、調理実習室 新潟ユニゾンプラザ 大研修室

*この他にも夏から秋にかけて、「青木悦さん講演会とシンポジウム」(8/3)、「スター・ヘアリング IN 新潟 講演会&ワークショップ」(9/6)など、財団が後援・協力して開催されるセミナーがあります。財団ホームページにも案内を掲載していますので、ぜひご覧ください。

ヌエック研修報告

全国の女性関連施設の職員や団体の方との交流と施設職員として必要な知識を得るために、6月11日~13日に開催された国立女性教育会館(ヌエック)の「女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」に参加してきました。

講座の柱は「多様な主体との連携・協働」と「評価の重要性を認識する」の2点であり、前者については、男女共同参画を身近な問題、地域における課題として推進していくためにNPO法人や企業などと従来の枠にとらわれない連携・協働を模索していくこと、後者については、2003年の地方自治法における指定管理者制度の導入以降、女性関連施設においても評価が重視されるようになった話などがありました。

そのうち、「評価」については、施設設置者(主として行政)等の外部による評価だけではなく、組織運営を見直して改善していくために自ら行う「自己評価」の仕組みづくりが重要ということでした。以前、企業の営業職として毎月棒グラフで「他者(上司?)評価」とともに「自己評価」をしていた身としては、「評価」が単に管理をされるためのツールではなく、自らのモチベーションアップに繋がるものであるべきという講師の言葉にたいへん共感と勇気を得て帰ってきました。資料をご覧になりたい方は、財団事務局までお声掛けください。【報告者：専門員 西條和佳子】

お知らせ：財団のメールアドレスが変更になりました。新しいアドレスは npwf@npwf.jp です。
以前のアドレスは使えませんので、ご注意願います。

編集発行/財団法人新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所 2-2-2 新潟ユニゾンプラザ 2階/新潟県女性センター

TEL: 025-285-6610 FAX: 025-285-6630

E-mail: npwf@npwf.jp HP: http://www.npwf.jp/